

老いの恋文

未来から悔恨がやってくる時
今更に公約や私約に挑む時だ
老いの恋文を書かねばならぬ
公務員労働者の連帯と誇り
あなたの公約は問わないが
私約は誰も避けられない倫理だ
新しい年が明ける
己を忘れるにはまだ早すぎる
悲しみと微笑みの観世音の朝に
私は自らに問い続ける
老いをとがらせよ
戦後平和と民主主義の世代の誇り
後続く世代との対話を求め
凍えそうな街角に立ち尽くして

こそことし

去年今年

区切らなくては歳はとれぬ

たとえ「貫く棒の如きもの」でも *

無明の仕草が生きる姿勢を整える

枯れた枝草を集めた家の炉辺の場

焚火の炎に観入る年の瀬のひととき

貫く炎のようなことなのだ

心に浮かぶ年輪が消え去り

細々の人も消え去り

揺らぎ輝く焰の連鎖へ

歳をとるということは

年輪を消し去る炎の儀式だ

* 去年今年貫く棒のごときもの 高浜虚子

* ASA だより2019・1に掲載

松本先生 さようなら

那須野が原・小埜の庵は 松本会長の

一行の詩となる文芸自裁の道だった

人は死して天空に舞う微塵となり

一行の詩となれば 永久に生きる

那須を第二の故国とし

「野薔薇の道」を小説・詩文に残した

* 韓国は血の故国たり吾を生みし

野薔薇の記憶の今にかなしも

* 淡あはと己が宿命の地を見つつ

堅香子の花瞑想に咲く

* ことごとにいじめの的に絞られて

石もて追われ野を彷徨ひき

返歌（守城） （2／25）

ごろすけほう数千年の鄙の逢い引き

野薔薇の道のたばこ一服

*ASA だより2018・4に掲載

おわら風の盆

(柿沼翠流・書泉会の視察にて)

翠流も雨情もここに時雨たり

八尾の衆の風の盆歌

彼の岸に撓る手先は届きたり

井田の川面に揺らぐぼんぼり

立山に風送られて鎮まりし

色づく八尾おんな盆唄

おわらゆきてやがてさびしき風の盆

風の盆おくりおくれ二胡の宵

ぼんぼりやゆらぎてすぎる風の道

ゆきゆきてやがてうきよに風の盆

行く夏や荒磯の岸の旗焦げて

晩夏光荒磯へ赤銅の傾けり

夏冬のこもりの淵の野分けかな

(2010年9月3日 富山市八尾町)